



ボランティアセンターだより

1998 年（平成 10 年）3 月 31 日

第27号

發行

社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより

編集委員会

〒560-0881 豊巾市中桜塚 2-28-7 TEL (848) 1000

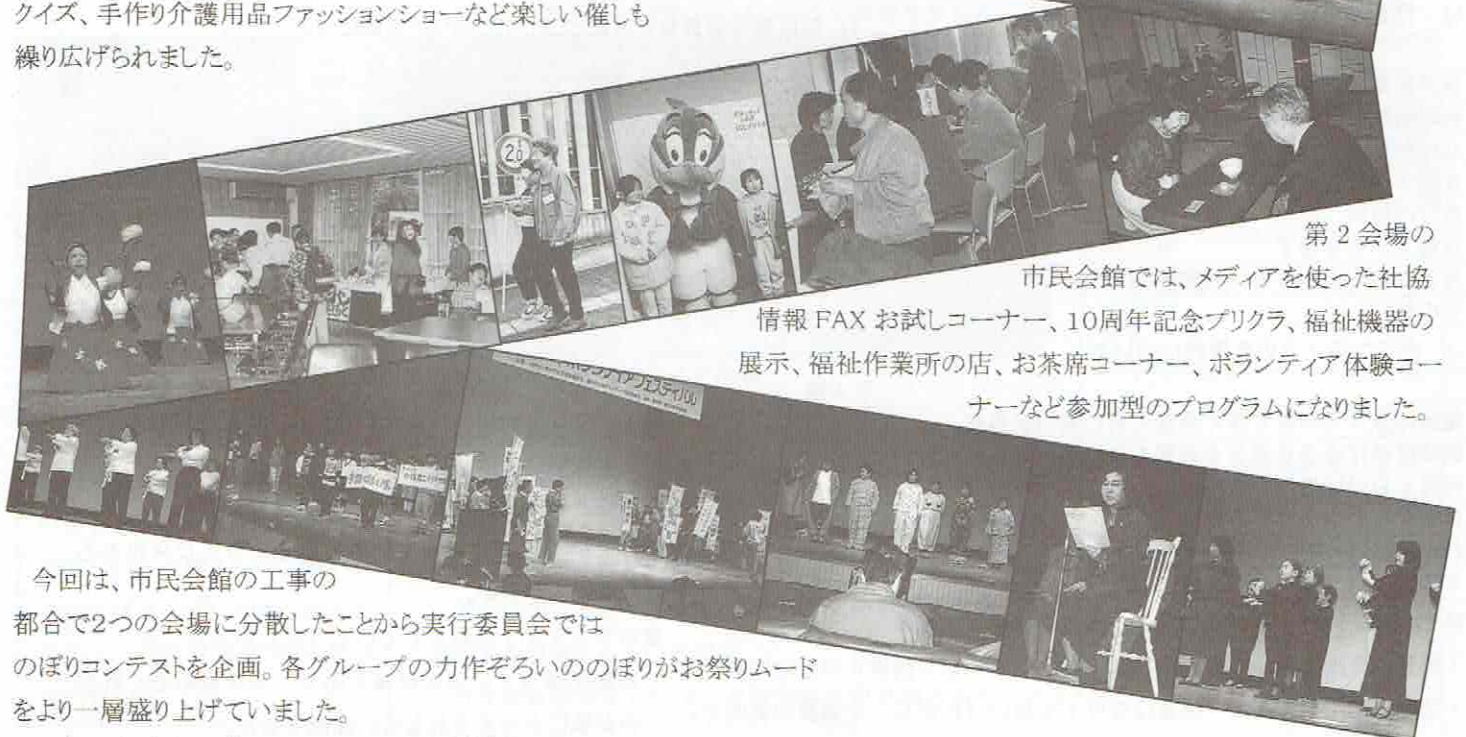
おかげさまで  
ボランティアセンター10周年  
はじめよう・・・つづけよう・・・わすれない  
ボランティアセンター10周年記念行事  
第5回豊中ボランティアフェスティバル

2月15日、ボランティアセンター開設10周年を記念して「第5回豊中ボランティアフェスティバル」が盛大に開催されました。

メイン会場となったアクア文化ホールでは、コーラス、ボランティア表彰、福祉体験作文の朗読などの後、地域ボランティア活動推進委員会の委員長吉田芳子さんが「ボランティアセンター10年の歩み」を基調報告。引き続き、企業の社会貢献担当者や校区ボランティア部会、ボランティアグループの代表などでパネルディスカッションが行われました。



午後は、各グループの活動紹介を中心にいきいき歌体操、グループ対抗クイズ、手作り介護用品ファッションショーなど楽しい催しも繰り広げられました。



第2会場の

市民会館では、メディアを使った社協  
情報FAX お試しコーナー、10周年記念ブリクラ、福祉機器の  
展示、福祉作業所の店、お茶席コーナー、ボランティア体験コー  
ナーなど参加型のプログラムになりました。

今回は、市民会館の工事の都合で2つの会場に分散したことから実行委員会ではのぼりコンテストを企画。各グループの力作ぞろいののぼりがお祭りムードをより一層盛り上げていました。

10年目を迎えたボランティアセンター。支援する人される人の垣根を越えて更なる発展を誓い合った心温まる集いとなりました。

# ボランティア



- S58. 3 ボランティアスクール開講  
12 豊中市社会福祉協議会が社会福祉法人格を取得
- S59. 4 福祉教育協力校指定
- S62. 6 ボランティアセンターだより発行  
9 在宅介護の実際講座開講
- S63. 4 ボランティアの登録・派遣事業の開始（Vセンタースタート）  
9 福祉の町づくり講座開講
- H1. 4 登録ボランティアグループ結成（小さな手、聴くの会、みちしるべ）、福祉機器の貸出  
12 北摂ふれあい広場（豊中市で開催）
- H2. 6 ひとり暮らし老人の話相手に関する調査、ボランティアルームの開設
- H3. 1 登録ボランティアグループ「聴くの会」により友愛電話訪問開始  
地域ボランティア講座の開講  
4 リフト付自動車「ニューあい号」の貸出し開始  
6 ボランティアグループの紹介冊子作成
- H4. 3 登録ボランティア組織化に関する調査  
ビデオ「やさしい町を求めて 豊中のボランティア活動」を作成  
4 福祉の町づくり講座フォローアップ事業（校区ボランティア部会推進事業）の開始  
6 青少年ボランティアスクール開講  
登録ボランティアグループ（そよかぜ、ステッキ、つばみ、豊中アッシー、ズームイン）発足

## ボランティアセンター10周年調査

## ボランティア108人に聞きました

～現在、ボランティア活動している人達にアンケート調査しました～

### Q. 活動を始めたきっかけと動機

|                     | 人数 |
|---------------------|----|
| 自分自身の人間性を高めたいから     | 35 |
| 余暇時間を有意義に過ごしたいから    | 42 |
| なにか社会の役に立ちたいから      | 75 |
| 友人・仲間を増やしたい         | 28 |
| 自分の技術、能力、経験を生かしたいから | 23 |
| 立場上やむを得ず            | 5  |
| 身近にほっておけない問題があるから   | 13 |
| その他                 | 12 |

### Q. ボランティアの有償性について

|                          | 人数 |
|--------------------------|----|
| 報酬は受けるべきでなく実費も自己負担が当然    | 10 |
| 報酬は受けるべきでなく実費も自己負担はしかたない | 21 |
| 実費くらいは受けても良い             | 66 |
| 日当くらいは受けても良い             | 3  |
| わからない                    | 8  |
| その他                      | 9  |

### ※その他 ・ケースバイケース 負担者の経済状況等

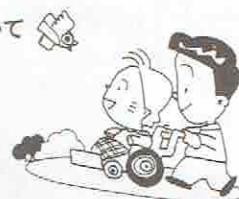
- ・実費や日当は受けてもかまわないが、こちらから請求すべきではない
- ・活動内容にもよる ・実費は受けても良い（ただし、交通費の範囲で）
- ・公的介護制度、NPOの法制度との関連から、ボランティア活動について検討すべき時です。

### Q. 校区福祉委員会を対象としたボランティア活動について

|                   | 人数 |
|-------------------|----|
| 身近な助け合いなので是非参加したい | 59 |
| どんな活動があるのかわからない   | 30 |
| 近所での活動は遠慮したい      | 4  |
| その他               | 8  |

※その他 ・近所付き合いの中から自然に生まれるのが望ましい。

・自分の身近な人達が力を合わせて助け合いが遠慮なく出来るような雰囲気ができればいいと思う。



### ●ボランティアセンターに対する意見、希望

- ・ボランティアセンターがもっと一般市民にPRを密にしてセンターの存在を表明してほしい。
- ・他の地域活動との連携の中心となって欲しい。
- ・支援を受けている人が片寄っていると思う。サービスがあることを知らない人が多い。

### ●ボランティア活動をしていてうれしかったこと

- ・援助を待っている人が多くあり、大変喜んでくれたのが私にとってうれしく、感謝でした。
- ・顔なじみになった地域の人達に他の場所でも出会い、交流が深まっていること。

# 10年のあゆみ

- H4. 10 豊中市社協ボランティア団体連絡会結成  
12 校区ボランティア部会交流会の実施
- H5. 2 第1回「豊中ボランティアフェスティバル」の開催  
6 ビデオ「広がる豊中のボランティア活動」制作、ボランティアルーム 桜塚会館へ移転
- H6. 9 手づくり介護用品展示コーナーの設置（原田、桜井谷老人デイサービス）  
ビデオ「まだまだ現役ボランティア」の制作  
11 友愛電話訪問事業電話聞き取り調査
- H7. 1 阪神淡路大震災発生、震災支援ボランティアセンター開設（～5月）  
10 阪神淡路大震災の支援活動の記録の作成  
11 市民のボランティア体験コーナーの実施  
12 ボランティア川柳募集
- H8. 2 震災支援ボランティア活動パネル制作  
4 震災における団体の支援活動に関する調査（～5月）  
6 災害支援ネットワーク会議結成  
10 小地域福祉ネットワーク事業を開始  
12 災害支援活動マニュアル作成委員会発足
- H9. 1 あの瞬間（とき）を忘れない 災害支援訓練 パネルディスカッション  
2 日本海沖重油回収支援募金の実施  
7 校区ボランティアコーディネーター研修会実施、ボランティア体験プログラムの開始  
9 災害支援活動マニュアル発行、企業・団体の社会貢献活動検討委員会設置  
11 ふれあいのまちづくり事業スタート



## 豊中ボランティアフェスティバルのぼりコンテスト

今年初めて行われたのぼりコンテスト。どののぼりも力作ばかり。カラーでお見せできないのが残念です...

入賞した3グループからコメントをいただきました。



### 第3位

#### いきいき歌体操グループ

「さわやか」

グループの中の「ロウケツ」

染めの名手に作ってもらいました。当日、力作揃いの「のぼり」の列を見て、入賞はとてものと思いましたが、「7番に〇をつけて下さい」と皆さんにお願いしたおかげで(?) 3位になったのでしょ。う。「ラッキーセブン」でした。



### 第2位 「まどか」

のぼり製作に当たり、まず、「まどか」の特性を表す色を決めようという事になり、相談の結果、まどかのもつ存在意義からくるイメージカラーを目に優しい自然界の色という事で「緑」に決定。

苦心はのぼりが2本という事で、文字を切り抜き、その両方を使用するという辺り。

3文字を図案化したマークは全体を引き締めるのに大いに役立った。

### 第1位

#### 手話サークル「あさなぎ」

デザインはサークル内で募集。沢山集まり嬉しい悲鳴。サークル名「あさなぎ」を朝日と海で表したデザインを基に、手話表現を描いてサークルの内容をアピールしました。協力して色塗りし、鮮やかなのぼりのできあがり!

# 震災から3年・・・

阪神淡路大震災から3年目を迎えたこの日、社会福祉協議会では災害支援ネットワーク、豊島地区社会福祉協議会、ひとり暮らし老人の会、老人介護者（家族）の会、障害者福祉作業所連絡会の協力を得て昨年作成した「災害支援活動マニュアル」をもとに約80名が、住民参加型の災害支援訓練を実施しました。

7時30分に豊中市南部に地震が発生したことを想定し、即、福祉救援対策本部を市社協に設置、その後ボランティアセンターはボランティアの受入れ体制作りと避難所調査へ。また当事者組織はそれぞれ会員の安否確認。被害が集中したと想定された豊島地区では校区福祉救援対策本部を設置して、初期消火とチェーンソーを使った救援活動、小地域ネットワークを活かした要援護者の声かけ活動など、本番さながらの訓練となりました。



パネラー右から「ぶどうの木」木村俊道氏

「豊中グリーンヒル」辻下勝巳氏

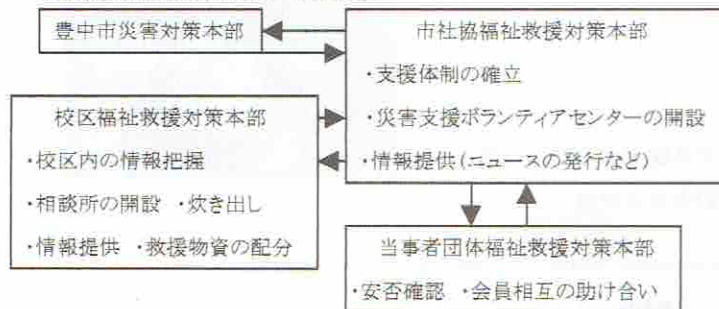
「原田校区福祉委員会」戸谷文代氏

コーディネーター 豊中市社会福祉協議会事務局 勝部麗子

その後に行われたパネルディスカッションでは、およそ200名の参加者を得て、仮設住宅から恒久住宅への引越しが完了し、「豊中では今何が求められているのか」をテーマに仮設で活動したボランティアや恒久住宅のシルバーハウジングの生活援助員そして被災者を迎えた校区福祉委員会が何を感じているのかが問題提起されました。

その中で、仮設でできた人間関係を恒久住宅への引越しで一から作っていく高齢者の課題や特に仕事と家を失った男性の精神的なケアの必要性、被災者を受け入れる校区福祉委員会の役割などを話し合いました。

## <福祉救援対策本部の全体図>



「災害支援活動マニュアル」より抜粋

## 福祉教育協力校福祉体験作文

手話クラブに入って

豊中市立寺内小学校 六年 高塚 詩子

私は今、手話クラブに入っています。

最初は自分にできる心配でしたけど思ったよりもむずかしくなくてすぐ覚えられました。一つ覚えたとうれしくなり友達とそれを使ってクイズとかしました。

前期の時、二年生に教えてあげる機会がありました。二年生は一生けん命覚えてくれてなんだかうれしくなりました。

舞台の上で「トゥモロー」という曲を手話でしたときなんかうれしかったけど終わったらなんか自分が上手になつたように思いました。この話があった時少しいやだったけどなんだか楽しかったです。当日成功してよかったです。

前期の終わりのころ細尾さんという耳の不自由な人の講演会がありました。その人は手話で話していました。少しわかる所もあったのでうれしかったです。耳の不自由な人は自分の気持ちを伝えるのが大へんで毎日の生活も不便なことが多いそうです。

もつとたくさんの方が手話ができるようになればたすかるのにと細尾さんの話をきいて思いました。

後期のクラブも私は手話にしました。前期いっしょにしていた友達とははなれてしまったけど楽しかったです。

十一月二日に「ふれ愛ピック」という身体障害者スポーツ大会に行きました。開会式の時にあひんの人が話をするのでそれにあわせてとなりの人が手話をして伝えていました。私はすごくかっこいいなと思いました。

私は手話クラブに入ってからテレビで手話とかやっているのを見るようになりました。まちがわずにきちんとはつきり表現しているし表じょうも手話にあわせてかわるしほんとうにすごいなと思います。

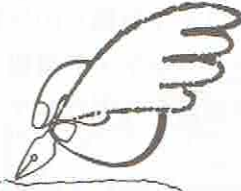
私は将来耳の不自由な人に少しでも役にたちたいと思います。



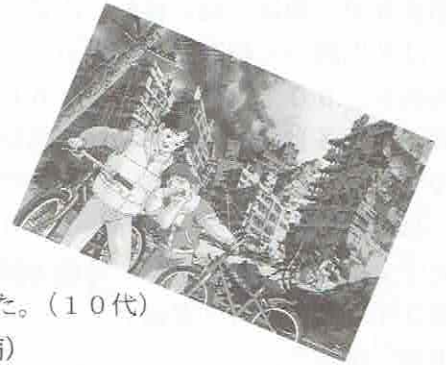
# あの瞬間(とき)を忘れない

引き続いて行われた映画「地球が動いた日」の上映会は豊中—大阪国際空港ロータリークラブと大阪空港ロータリーアクトクラブの協賛を得て行われ、お年寄りや親子連れなど、600名もの参加者がありました。

この映画は大震災の悲しみから明日を見つめ、互いに希望を見つけ出して成長していく子供たちの姿を感動的に描いたもので、来場者の中にはハンカチを片手に涙ぐむ姿が数多く見られました。



来場者アンケートより



- ★自分だけでなくほかの人たちのことも大切だと思いました。(10歳未満)
- ★私はさいがいが家になかったけど、こんなに大変だとはおもいませんでした。(10代)
- ★みんなが力をあわせてたすけあったところがよかったと思う。(10歳未満)
- ★感動しました。当たり前なのになかなか出来ない助け合い。子供に少しでも伝わればと連れてきました。(30代)
- ★仮設住宅に行った友達など、いろいろなことを思い出しました。でも、3年って長いようでみじかく、命の大切さや人と人とのむすびつきや助け合いなど、少し忘れかけていた自分があったように思います。(30代)
- ★震災で大きなものをなくした反面、人間として一番大切な心を与えてくれた気がします。いつまでも忘れない「災害」のためにより映画だと思いました。学校等でも利用できるといいですね。(50代)
- ★忘れかけていたあの日を思い出しました。多くのなくなった方を思うと…。大自然の前で何も出来なかった防げなかった人の無力さと共に支えあい、助け合い、立ち上がる、すばらしさ、強さを感じました。(50代)
- ★とってもいい映画でした。感動しました。子供もみんなつらい思い出だったけど又それで長い人生お互いのことを思い合うことができると思う。一人でも多くの人に見てもらいたい。よく仕上がっています。(50代)

## ボランティアへのメッセージ

10周年を記念して、ボランティアを依頼した方々からメッセージが届きました。その1部を紹介します。

外出がほとんどできない、私たち身障者にとりボランティアの存在は、社会への接点であり、灯しびであります。わずか1週間に2時間ですが、ご来訪をまわびています。

時に応じて、外へ出ることもでき、私等にとり何よりの喜びであり、慰めであります。一層のご盛行を望みます。生きがいです。ありがとうございました。

上野坂 K

今から思えば全ての物、人から見放されている気分の時、自分一人だけでひどく見放されている気分の時、自分一人だけでひどく高いハードルを乗り越えなければと思っていた時、やさしい手と力を私に与えてくださった。

ボランティアの人達にありがとうを言いたい。子供の成長を肉親や主人より喜んで下さった人達がいたらこそ救われたと思っています。

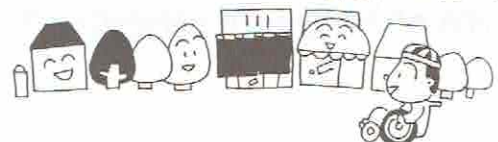
少路 I

12歳で、若年性糖尿病を発病し、それがもとで失明、人工透析の導入と最もつらかった頃、何か楽しみを持とうと始めたのがフルートでした。自宅から服部のレッスン場まで手引きでボランティアのお世話になりました。市社協「新年の集い」でふるえながら「白いブランコ」を吹かせていただいたことが昨日のことのよう思い出されます。

このことがきっかけとなり「アンサンブルひまわり」という楽団を結成することになり、その後右目は手術により約12年ぶりに視力が戻りました。

たくさんの方々の支えにより、今まで何とか生きてこれました。今までお世話になった分何かの形で少しずつでもお返ししていきたい……そんな思いで音楽活動を続けています。

上野東 正岡 真紀



## ボランティアレポーター訪問記

～大阪水上隣保館を訪ねて～

JR山崎駅北側天王山の広大な山手斜面の樹間に点在している十数棟の新旧の建物とその敷地が社会福祉法人大阪水上隣保館です。

本館は前理事長故中村遙氏が昭和6年(1931)僅か4人の水上生活者の子弟を預かって学校に通わせたのが始まりで、戦後当地に移転、次第に拡張発展し、現在では乳児院から特別養護老人ホームまで、赤ん坊から高校生、90才代の老人まで250人の人達が生活を共にする多目的、大規模な総合福祉施設となったものです。

私達「みちしるべ」は昨年11月12日当隣保館の見学会を実施しましたが、時間の制約もあり当日は平成3年に開設の特別養護老人ホーム弥栄の郷しか見学出来ず残念でした。

弥栄の郷は入所者50名、ショートスティ10名、デイサービス数名の方々が施設長をはじめ多数の職員の温かい、キメ細かい介護を受けながら楽しく生活しておられました。入所者の平均年齢は85才、90才以上の方が15人も居られました。

1階は6畳位の個室、2階は4人部屋で、いづれも小奇麗に整頓され、夫々の趣味により、俳句の短冊や水墨画、貼絵の色紙、手芸品、施設内に居住する子供達の作品などを飾り、此所ならではの若い世代との交流の成果が伺えました。

最後に創設者故中村遙氏が当館運営の基本理念として残された言葉を記しておきます。

「喜ぶ者とともに喜び、悲しむものとともに悲しみなさい」

## 「みちしるべ」厚生大臣から感謝状！！

去る平成9年11月6日大阪府庁にて市社協登録ボランティアグループ「みちしるべ」が厚生大臣からの感謝状を受与されました。

今回の受与は「みちしるべ」の長年にわたる活動が認められたもので、今後もこの活動が福祉のまちづくりに大きな役割を果たすことを期待しています。



## 編集後記

小さな一粒の種が蒔かれて十年。ボランティアセンターは十歳になりました。お陰さまでたくさんの枝葉をつけ、幹もずいぶんたくましくなりました。二十一世紀へ向けてどんな成長を見せてくれるのでしょうか。あなたの指先からこぼれるやさしさのひとしずくで。(K. S.)

## ボランティア中級セミナー

ボランティアセンターでは、平成10年2月20日(金)から3月17日(火)までの5日間「ボランティア中級セミナー」を開催しました。

この講座では、「ボランティアのあり方や役割」をテーマに、介護保険制度についてや校区福祉委員会からの「小地域福祉ネットワーク活動」の活動報告、インターネットを活用したボランティア情報ネットワークについてなど、様々な視点からボランティア活動について学びました。

受講者は、「介護保険制度が導入されてもボランティア活動は重要だと分かりました」「活動報告を聞きいろいろなボランティア活動があることを知りました」などの意見が寄せられ、これからの活動の参考にしていただければと期待しています。

## ～お知らせ～

### ★豊中市社協の活動がテレビで放映！！

平成10年1月24日(日)、毎日放送「現代を生きる」にて、「地域でふれあう～豊中市社協のとりくみ～」というタイトルで野畑校区、上野地区や克明小学校の取り組みが放映されました。

市社協ではこのビデオを貸出しております。どうぞ、ご利用ください。

### —ボランティア保険ご案内—

| 保険の種類        | 加入対象                        | 掛金(円)                       | 保険期間                                       |
|--------------|-----------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------|
| ボランティア保険     | ボランティア活動に参加する方              | A 300円<br>B 500円<br>C 2000円 | 毎年4.1～翌年3.31までの1年間(途中加入の場合、毎月1.10、20日から発効) |
| 有償活動保険       | 府下・地域を対象として有償活動を行っている団体     | A 1000円<br>B 1500円          |                                            |
| 子供保険         | 地域で活動している子供中心の団体            | 200円                        |                                            |
| 移送サービス交通傷害保険 | 移送サービスを行う団体                 | 420円より                      |                                            |
| ボランティア行事保険   | ボランティア保険に加入できる人やその団体が主催する行事 | 宿泊なし1人30円(50人以上)宿泊あり283円より  | 行事期間(行事の1週間前までに申込)                         |

